

(公印省略)

13病防第14号の6
平成13年9月28日

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成13年度病虫害発生予察情報について(送付)

このことについて、病虫害発生予報第7号(10月)を発表したので送付します。

平成13年度病虫害発生予報第7号(10月)
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	ミカンハダニ	やや少ない	並
カンキツ カキ	カメムシ類	多い	多い

【果 樹】

1 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬の調査では寄生葉率は平均4.6%(平年:9.5%、前年:8.2%)、発生ほ場率は50.0%(平年:52.8%、前年:55.6%)であった。

イ 気象予報では、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 雌成虫の寄生葉率が30~40%を目安に防除の要否を決定する。

イ 薬剤防除にあたっては、葉裏にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性の発達を避けるため、数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

2 カンキツ、カキのカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量: 平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 筑紫野市吉木の予察灯・集合フェロモントラップにおける8月1半旬～9月5半旬までのチャバネアオカメムシの累計誘殺数は下表のとおりで、予察灯では前年より多く、集合フェロモントラップでは少なかったが、9月15日以降増加している。

イ 9月5半旬のヒノキ球果のビーティング調査によると、主要3種（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の寄生頭数は、県内22地点の平均が39.7頭（平年：12.9頭、前々年：19.1頭）と多い。

ウ ヒノキ球果における1果当たり口針鞘数は、県内21地点の平均が19.4本で多いところは29.3本に達しており、一部ではヒノキを離脱して果樹園への飛来が始まっている。

エ 9月5半旬のカキの調査では、被害果率は平均2.9%（平年：4.0%、前年：0.8%）で、一部のカキ園で局地的に被害が発生している。

オ 気象予報では、10月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件である。

(3) 防除上注意すべき事項

平成13年9月21日付け 注意報第1号を参照

予察灯及び集合フェロモンによるカメムシ類の誘殺虫数（筑紫野市吉木）

調査時期	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ	
	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ
	8月1半旬	12(700)	1(596)頭	12(17)	0(2)頭	30(240)
2	14(662)	0(1,014)	15(26)	0(1)	36(171)	0(2)
3	35(458)	0(401)	38(33)	0(0)	80(95)	0(0)
4	96(115)	0(146)	32(16)	0(0)	95(46)	0(1)
5	239(209)	0(150)	46(37)	0(0)	128(51)	0(2)
6	502(172)	0(87)	31(11)	0(0)	71(10)	0(0)
9月1半旬	587(118)	6(38)	20(24)	0(2)	42(3)	0(0)
2	885(135)	8(36)	46(10)	0(10)	14(0)	0(0)
3	250(189)	4(51)	66(14)	0(2)	2(1)	0(0)
4	358(28)	96(34)	1,129(10)	44(1)	7(0)	0(0)
5	2,655(76)	140(5)	830(20)	(1)	1(0)	
合計	5,633(2,862)	255(2,558)	2,265(218)	(19)	506(617)	0(10)

予察灯：20Wブラックライト

()は前年の誘殺虫数

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年)	発生予想 (平年)
イチゴ	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少ない やや少ない 並 やや少ない	やや少ない 並 並 やや少ない
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	並 並 やや少ない	並 並 やや少ない
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	少ない やや多い 並 やや多い 並	少ない やや多い 並 やや多い 並
ネギ	シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエ	並 やや多い	並 やや多い
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	やや多い

平年値（過去 10 年間の平均）がない場合は、前年までの平均値を用いた。

【野 菜】

1 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発病は認められなかった。（平年：0.6%、前年：0%）

イ 気象予報では、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面の病斑の有無を随時確認し、早期発見に努める。

イ ビニル被覆期までに防除を徹底し、不要な下葉は早めに除去する。

ウ できる限り葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかりやすくする。

エ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

オ 農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める。防除薬剤については県野菜病虫害防除基準を参照する（以下の病虫害についても同様）。

2 イチゴの炭疽病

(*Colletotrichum acutatum* 菌による葉枯れ炭疽及び *Glomerella cingulata* 菌による炭疽病)

(1) 予報の内容

発生量： 平年並で前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発病株率は平均0.1% (平年：0.3%、前年：1.4%) であった。

なお、今回の調査で確認した炭疽病は葉枯れ炭疽であり、調査ほ場で従来の炭疽病の発生は認められなかった。

イ 気象予報では、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗期に本病が発生したほ場では、本ほでも発生する可能性が高い。

イ 発病を認めた場合は発病部位を早めに除去し、焼却するかビニルで完全に包み込み、周辺株への胞子の飛散を防止する。

ウ 茎葉の濡れている時間が長いと感染、発病しやすいので通風を良くする。

3 キャベツのコナガ

(1) 予報の内容

発生量： 平年より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生株率は平均0.9% (平年：5.9%、前年：0.6%) であった。

イ 気象予報では、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 老齢幼虫、蛹及び卵は薬剤感受性が低いので、できる限り若齢幼虫を対象に防除を行う。

イ 結球期までに重点的に防除を行う。

ウ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

4 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量： 前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発病株率は平均37.5% (前年67%) であった。一部のほ場で多発している。

イ 気象予報では、10月の平均気温は平年より高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を的確に行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤による防除を徹底する。

5 アスパラガスのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量： 前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生株率は平均25.6% (前年：8%) であった。一部のほ場で多発している。

イ 気象予報では、10月の平均気温は平年より高いと予想されている。

6 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生株率は平均40.6%（前年：14%）であった。一部のほ場で多発している。

イ 気象予報では、10月の平均気温は平年より高いと予想されている。

7 ネギのネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生株率は平均4.0%（平年：1.9%、前年：7.8%）であった。

イ 気象予報では、10月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼苗期に防除を徹底する。

イ 収穫終了後にハウス内土壌の表面を1週間程度ビニルで覆い、土壌中の蛹の死滅を図る。

8 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年並

(2) 予報の根拠

ア 福岡市、朝倉町（2ヶ所）および行橋市の9月3半旬～5半旬間のフェロモントラップによる誘殺数は平均150頭（平年：182.3頭、前年：166.2頭、図1参照）であった。

イ ネギでの9月5半旬調査の結果、被害株率は平均0.3%（平年1.5%、前年3%）であった。

ウ 気象予報では、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ ネギの場合、葉身に産下された卵塊から孵化した幼虫は、そのまま葉身内に食入し内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

エ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

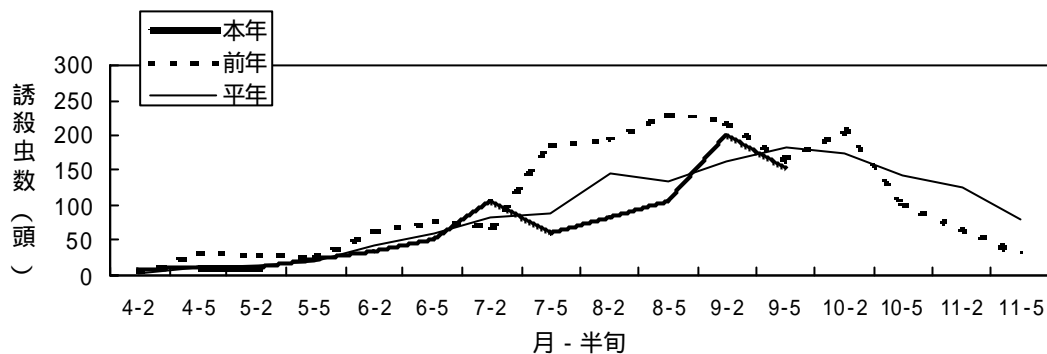


図1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移

9 野菜共通のハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 筑紫野市のフェロモントラップによる9月5半旬の誘殺数は245頭（平年178.9頭、前年443頭）であった。（図2参照）

イ イチゴでの9月5半旬調査の結果、寄生株率は平均3.9%（平年1.8%、前年5.2%）、被害株率は平均13.3%（平年12.2%、前年16.9%）、発生ほ場率は67.9%（前年52%）であった。

ウ 気象予報では、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するので、早期発見に努め、防除効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底する。

イ 幼虫が食害するのは主に葉であるが、イチゴ、ナス、トマト等の果菜類では花らいや果実も食害するので、発生状況については十分注意する。

ウ ほ場周辺に繁茂した雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。

エ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

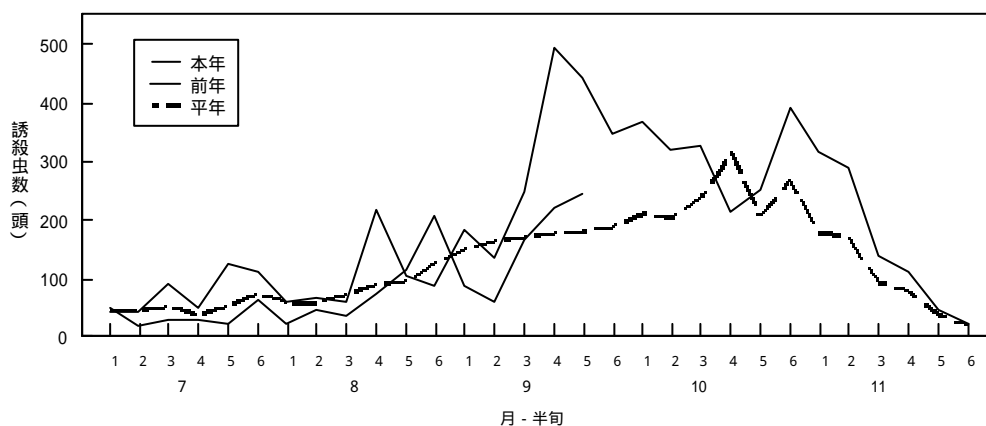


図2 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑紫野市）

10月の気象予報（1か月）

（予報期間9月22日～10月21日）

2001年9月21日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年より多い可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	30	50
降水量	30	50	20
日照時間	20	30	50

- < 1週目の予報 > 9月22日～9月28日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 9月29日～10月5日
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 10月6日～10月19日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
20.3	110.9	163.1	22.2	21.0	19.3

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び電話番号は下記のとおりです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）